

所蔵品展 自然と散歩 A Walk with the Nature

平成24年 11月7日～平成25年 3月17日

赤、青、緑の色彩が勢い良く飛び散った15着のバスローブ。MAYA MAXX が、故郷の今治のタオル地に描いた作品です。この作品は、2007年に当館で開催した「井出創太郎 ×MAYA MAXX × ミヤタケイコ COLOURS OF EHIME」の際に公開制作されました。これは、3人の芸術家による愛媛に関連した素材や場所をテーマにした作品の公開制作とワークショップ、そして展示という試みでした。MAYA MAXX はタオルを選び、そして故郷の海辺の街・今治から臨む瀬戸内海の色を描いたのです。

タイトルは、「これが私の世界一美しいと思う故郷の景色です」。青い海、赤い太陽、そして緑の島々、幼い頃から日々目にしたこれらの美しい光景が、どんな景色よりも素晴らしいと MAYA MAXX は語ります。

ふかふかで真っ白なタオルの上に、独自の色彩が生き生きと躍動し、染料を飛ばしたり、手で直接押し付けたりした、制作時の画家の勢いのある動きが伝わってきます。また、この作品には、その制作の場を共有した人々との対話から生まれたものを一緒に封じ込められているのです。

今回は、「自然と散歩」というテーマにおいて愛媛の自然を描いた作品を紹介しています。MAYA MAXX のバスローブ作品は、特別な機会を設けて実際に来館者の方に着て歩いていただくことも。今回も開館記念日に実施しました。他にも、男鹿和雄や長谷川竹友が描いた石鎗山、小清水漸や野間仁根による海、武田耕雪、古茂田公雄が描く面河溪などを展示。愛媛の恵まれた自然を、作品とともにめぐってみませんか。(H.S.)



MAYA MAXX 《これが私の世界一美しいと思う故郷の景色です》2007年



展示風景より

Column 作品保存のおはなし

火災が起こったら?!



乾燥したこの時期、美術館でも消防訓練を行いました。その際、当館の消火設備について説明を受けたので、今回はそのおはなし。

通常の消火設備は、泡や水で消す消火器や消火栓、スプリンクラーが主流ですが、美術館の展示室や収蔵庫など作品を保管する場所では、そのような消火設備は使えません。消火の際に作品が傷まないように酸素濃度を下げて鎮火する消火ガスを使用します。

一昔前は、フロンガスが使用されていましたが、オゾン層が破壊されると使用できなくなり、現在はイナージェンガスが使われています。このガスは、大気中に含まれるガスで構成されており、主成分である不活性ガスと窒素の合成語から名前がつけられました。このガスは呼吸医学博士が作り、人体に対しても安全であるように最低酸素濃度が維持されていますが、火災の状況によっては、人体に安全な酸素濃度が確保できないこともあると言われています。また、迅速な消火のため扉が閉まり、一気にガスが噴射されるため無色のガスですが、視界が妨げられることもあります。

展示室などで、万が一火災に遭遇したら、慌てずに職員の手指示に従って速やかに館外に出るようにお願いします。(A.T.)

- ご利用案内
- 開館時間 9:40～18:00(入室は17:30まで)
※企画展及び貸展については、入室時間が異なることがあります。各展覧会のページでお確かめください。
 - 休館日 月曜日
(祝日、振替休日及び第1月曜日に当たる場合は開館し、その翌日が休館日。年末年始は12/29～1/3が休館日)

愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
TEL 089-932-0010 FAX 089-932-0511
http://www.ehime-art.jp/

おかげさまで
愛媛県美術館は14歳になりました!

学芸レポート
開館記念日レポート

1998年11月27日、愛媛県美術館が大きく生まれ変わった記念日を祝い、毎年11月第4日曜日を美術館の開館記念日として様々な活動を実施しています。今年は、えひめ・まつやま産業まつりとも重なり、堀之内は大変な賑わいでした。

毎回開催しているのは、所蔵品展の観覧無料と、前庭で実施する手作り品のフリーマーケット「てしごと市」です。2、3ヶ月前から出店者を募集し手作りしてもらっているのが力作揃い。その横では、チョークで大きな絵を描く「大地は大きな黒板だ!」を実施し、子どもたちが寒さにも負けず大きな絵をいっぱい描いてくれました。

館内でも事業が目押し。所蔵品展からは、バスローブ作品を希望者が着用して館内を歩くという特別企画や、作品ガイドボランティアと共に作品鑑賞をする時間も、企画展示室では、無の空間に作品を展示していく過程を紹介する「展覧会ができるまで」を実施。初めての体験に皆さん興味津々でした。その会場を利用した講座「アートゲームDA!」では、子どもたちが所蔵作品カードを使ってじっくり「みる」ことを楽しんでいました。最後にエントランスでは、14年の歩みを画像でまとめて上映しました。

これからも皆様に楽しんでいただける展覧会や、普及活動を計画していきますので、今後とも愛媛県美術館を宜しくお願いします!(A.T., H.S.)

ウマのひとこと(編集後記)

24年度もたくさんの名画や名品が美術館で展示公開されました。私にとって、長年の憧れのやきものだった松前城出土の重要美術品・青白磁梅瓶を出光美術館からお借りして展示できたことが夢のようです。今後も、こうした理もれた地域ゆかりの文化財を掘り起こして、皆さんにご紹介していくことができればと思っております。(H.I.)

Canforo 45

カンフォロ
愛媛県美術館ニュースNo.45 2013
発行日=平成25年1月15日 編集・発行=愛媛県美術館



遅ればせながら、新年、明けましておめでとうございます。愛媛県美術館は新美術館と言いながら誕生14年を過ぎました。人ならば、もう中学生です。将来を見据えて、しっかり歩んでいかなくてはと実感しています。(K.E.)

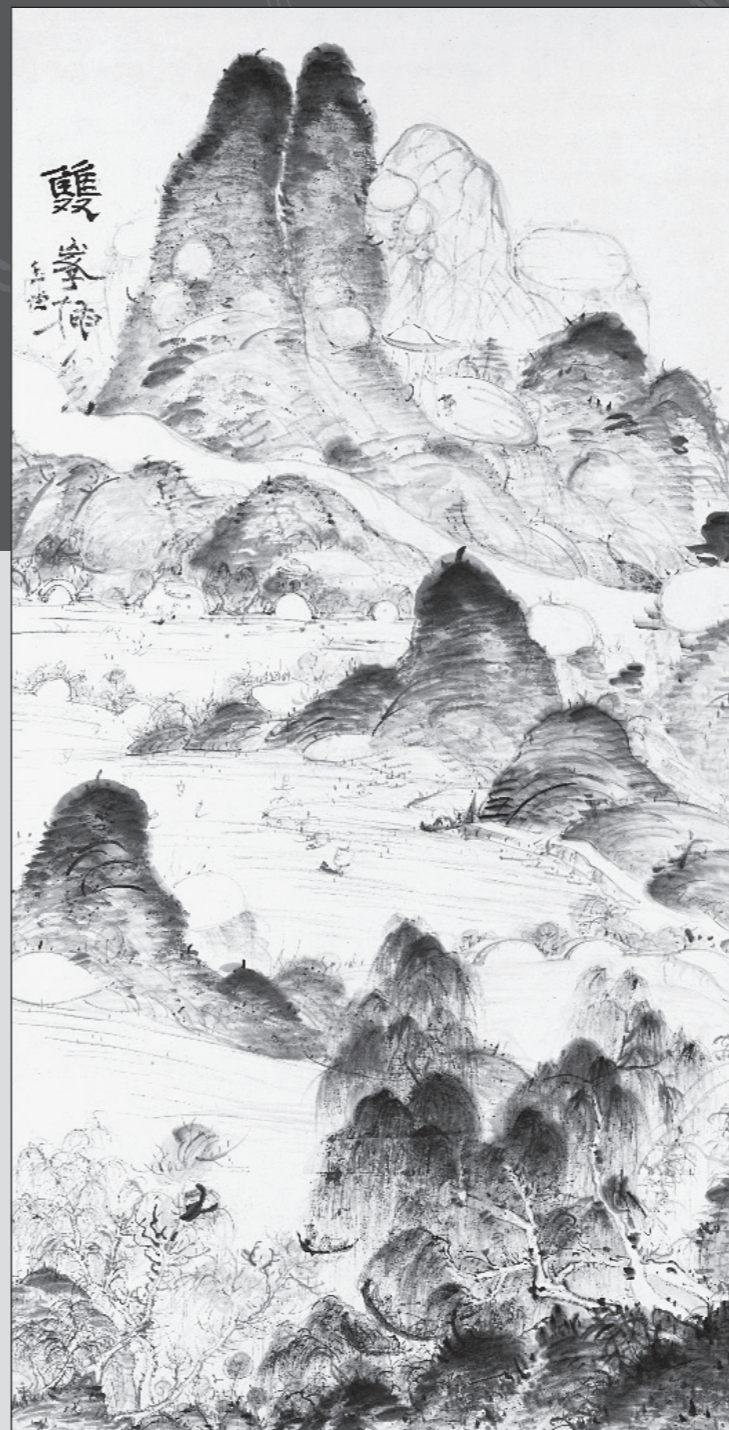
企画展1

愛媛県美術館友の会発足40周年記念

出光美術館所蔵 文人画名品展

平成24年12月22日[土] - 平成25年1月27日[日]

休館日：月曜日 ※ただし12/24、1/7、14は休館し、翌火曜日が休館、及び12/29～1/3 時間/9:40～18:00 (入場は17:30まで)



浦上玉堂《雙峯挿雲図》重要文化財 田能村竹田《春暈夜月図》天保5年(1834)頃 重要美術品

江戸時代以降の美術の歴史の中に特異な存在感をもつ一派として文人画というものがあります。漢字文化圏の美術における一つの伝統で、その概念は難しいのですが、敢えて簡単に言ってしまうと、詩文や書画のような文雅に関する学識をそなえた人が、自身の楽しみ、友との楽しみのために制作した絵のことを言います。画工が注文に従って制作するのは違い、画家自身の思いに従って描くのです。いわば自己の表現ですが、この自己は万巻の書を読み万里の道を行き、古来の文雅を学んで心を継承し、昔の君子にならって描くのです。

当館友の会発足40周年を記念して開催している「出光美術館所蔵 文人画名品展」では、出光興産の創業者、出光佐三氏が収集した美術品コレクションに始まる出光美術館コレクションの中から、池大雅、与謝蕪村、浦上玉堂、田能村竹田、富岡鉄斎など日本の文人画の巨匠たちの傑作を選び、重要文化財3件を含む61件を展示しています。日本の文人画の日本らしさは漢詩のみならず俳句や和歌とも調和するところにありますので、松尾芭蕉の書画も取り上げ、文人画と禅宗や煎茶との関係の深さを踏まえて、仙厓和尚の禅画や青木木米の煎茶器も紹介しています。江戸時代後期から明治期にかけて文人画は日本各地で隆盛を見ましたが、その一端を、浦上春琴や高橋草坪、帆船杏雨、貴名海屋などと田能村竹田との交友を通して見ていただきます。

見所の一つは田能村竹田の《三津浜図》。伊予松山藩の港町、三津浜の豪商の需めに応じて天保5年(1834)に制作した風景画です。また、特別出品の《青白磁刻花渦文梅瓶》は明治末期に伊予松前城跡において出土した考古学上の貴重な資料で、愛媛に初めて里帰りしています。この機会にご覧くださいようお願いします。(S.K.)

◆関連イベント

企画展リレー講座

- ① 1/5 「出光の文人画を鉄斎から見る」 ●時間：14:00～
- ② 1/19 「松前城出土の青白磁梅瓶」 ●場所：ハイビジョンギャラリー
- ③ 1/26 「絵は口ほどに物を言う -江戸の俳画と禅画-」 ※参加無料 申込不要

一日講座

- 印を彫って印譜をつくろう
- 日時：1/27 13:30～15:30
 - 場所：アトリエ1
 - 材料費：1,000円程度
 - 対象：中学生以上15名
 - ※前日までに申込ください。

ミュージアムコンサート

- Music in Museum by 出光
- 日時：1/12 11:00～14:00
 - 場所：エントランスホール
 - 主催：出光興産株式会社
 - ※参加無料 申込不要

その1 連続講座「ヨーロッパの古典技法に挑戦(テンペラ)」



連続講座の本年度1回目として7月7日(土)・8日(日)にテンペラ画の講座を実施しました。テンペラ画とは、色の粉(顔料)と膠や卵黄を混ぜたものを絵の具とし絵を描いたもので、中世のヨーロッパで発展したものです。今回は、ヴェネツィア展に展示中のテンペラ作品も鑑賞していただきながら、その制作過程も体験し、より理解を深めていただくというねらいで実施しました。

講座では、14世紀に行われていた方法そのままに、まず下地作りから始めました。板に膠水と白亜(石膏)を混ぜたものを、何回も塗り重ねていく作業は根気が必要ですが、皆さん黙々と取り組んでいただきました。そして、いよいよ描画です。これがまた独特。卵の黄身をつなぎとして絵の具を作るのです。皆さん思い思いのテーマで空想の世界や季節の花々を表現していらっしゃいました。

丸二日間という長い日程にもかかわらず、皆さんの集中力はすばらしく、全員ほぼ完成しました。どの作品も、テンペラの特質が生きた鮮やかなもので、すばらしい出来映えでした。

皆様のご協力により、充実した講座となりました。心より感謝申し上げます。(T.I.)

その2 ただいま研修実施中!

当館で活動している作品ガイドボランティア(総勢38名)は、グループで話し合いをしながら作品の見方を深めて行く「対話型作品鑑賞」の進行について、専門的な訓練を受けています。この「対話型作品鑑賞」は、現在全国的美術館や学校現場で採り入れられつつある鑑賞法のひとつです。そして唯一絶対無二ではありませんが、来館者が展示室で主体的になれる鑑賞方法のひとつであると私は考えています。

この「話し合い」しながらの作品鑑賞で一番大切なスタッフのスキルは、相手(来館者)の話を「聴く」ことです。この「聴く」とは、ただ漠然と「聞く」のではなく、相手が何を言いたいのかを引き出し、時には溢れるような相手の想いを的確に言い換え、そして一見反対に見えるような意見をつなげたり、意見が偏りがちになった時には視点が拡がるように働きかけたりと、とても高度なスキルを必要とします。

この「場」の流れを読み、相手が話しやすい「場」を創造する能力を更に上げるために、美術館ではこの4月から「スキルアップ研修」と題して1. 教育理論編(6月開催)、2. 実践編(11月開催)、3. 作品選びの方法編(2~3月開催予定)が現在進行中です。来年の春からは、更にバージョンアップしたスタッフと対話型鑑賞をみなさんどうぞよろしくお願ひします!(Y.S.)



スクールトークのナビゲーターを務めるスタッフ



つぶやき

この「つぶやき」に登場する私の動物キャラクターは百舌(もず)です。百舌は自分の捕らえた獲物をあっちこちの枝に突き刺して、そして時々忘れてしまいますが、最近私にもそんな現象が...あ、舌の方はますます百に近づいているよーな今日この頃(笑)。(Y.S.)



愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内 TEL 089-932-0010 FAX 089-932-0511 http://www.ehime-art.jp/

企画展②



鉄腕アトム放送50周年・映画ブッダ製作記念

手塚治虫展

2013. 2.16 SAT - 3.31 SUN 開館時間 9:40-18:00(入場は17:30まで) 月曜日休館(ただし、3月4日は開館し、3月5日(火)が休館) 会場/新館1階[企画展示室]



「火の鳥」カラー原稿



「鉄腕アトム」カラー原稿

©手塚プロダクション

TEZUKA OSAMU

「マンガの神様」と称される手塚治虫(1928-89)。没後20年以上を経てなお、彼が描いたさまざまな魅力的な物語やキャラクターは、日本はもとより世界中で愛されています。代表作の一つである「鉄腕アトム」がテレビ放送開始から今年で50年を数え、また晩年の10年以上を費やして描かれた大作「ブッダ」が映画化されたことを記念して開催される本展は、「鉄腕アトム」「ブッダ」「火の鳥」「ブラック・ジャック」「ジャングル大帝」「リボンの騎士」をはじめ、手塚が生涯に描いた膨大なマンガとアニメーションの中から厳選した原画・映像・資料、さらには愛用の品などを紹介し、彼が未来へ託したメッセージを展覧するものです。

「第1部 手塚治虫の誕生」では、自然豊かな兵庫県宝塚市で過

した少年時代の昆虫標本やマンガ原稿、または戦争体験の資料などを通して、手塚の原点を探ります。「第2部 作家・手塚治虫」では、「ストーリーマンガ」と呼ばれる新たな表現を確立し、一方でアニメーターとして国産初のテレビアニメシリーズを成功させた手塚の業績を、代表的な作品を通して紹介します。「第3部 手塚治虫のメッセージ」では、環境問題、反戦・平和、生命など、手塚が物語の中にこめた読者へのメッセージを読み解き、今に生きる私たち、そして未来のあるべき姿を考えます。

マンガ・アニメの展覧会というのは、本来2次元のものを、いかに「立体的」に魅せるか...そこが苦勞するところでもあり、腕の見せどころでもあります。会場全体を使って、工夫をこらした趣向で皆さまをお迎えしようと思っています。どうぞご期待ください。(T.N.)

関連イベント

- スペシャル・フロアレクチャー ●講師:清水 義裕氏 (手塚プロダクション著作権事業局長) ●日時:2月16日(土)14:00~15:00 ●場所:企画展示室 ※申込不要。ただし企画展観覧券が必要。
記念講演会 ●講師:手塚 眞氏(ヴィジュアルリスト) ●日時:3月3日(日) 14:00~15:30 ●場所:講堂(先着120名) ※申込不要。聴講無料。
企画展講座 「江戸時代のマンガ―草双紙の世界」 ●講師:当館学芸員 ●日時:3月16日(土)14:00~15:00 ●場所:ハイビジョンギャラリー ※申込不要。参加無料。
一日講座「バラバラマンガ上級編」 ●日時:3月17日(日)、24日(日) 各13:30~16:00 ※両日同じ内容です。 ●場所:アトリエ2 ●材料費:200円程度 ●定員:小学生以上 各回先着20名 ※申込は、当館普及係(089-932-0010)まで。
手塚アニメソング・コンサート ※申込不要。参加無料。 I アコースティックライブ 出演:兵頭満(ギタリスト) ●日時:2/24(日)15:00~ ●場所:エントランス II 手塚アニメを歌おう! 出演:松山少年少女合唱団 ●日時:3/2(土)14:00~ ●場所:エントランス
「陽だまりの樹」の時代―泉美で江戸噺 ●日時:3/10(日)11:00~14:00 ●出演:三遊亭圓馬 ほか ●場所:講堂(各回定員120名) ※未就学児入場不可。 ※当日700円(前売500円)※前売券は2/16~3/9の間、企画展受付にて販売。
イツ・手塚ワールド! ―フィギュア大集合 ●協力:HTS ●場所:企画展示室前 ※会期中随時展示。観覧無料。
夢見るデザイン・アトムの時代 ―クラシックカー展示 ●場所:企画展示室前 ※会期中随時展示。観覧無料。